

super Mercedes

special cars
MERCEDES-BENZ EXCLUSIVE MAGAZINE

Vol.3 モーターファン特別 980yen

スーパー・メルセデス

オーバー600ps時代到来!

特集:AMG

612馬力でデビュー!

CL65AMG

AMG 2003モデル全車徹底試乗

CLK55AMG/E55AMG

C32AMG/SL55AMG

S55AMG/CL55AMG

ジュネーブショー
BRABUS 640馬力!
妖艶なるCLKカブリオレ
SLKファイナル

「S」新旧完全保存版

Lovely W140

ぶっちゃけ謳歌するSクラス
バイヤーズガイド/メンテナンス/スペシャルモデル

ニューSクラス精密カタログ

Invincible W220

Set Up講座

W123/W210Wagon/R129

W140/W210/W201/W124wagon

BRABUS/AMG/W124

独占試乗!

マイバッハ VS ロールスロイス・ファントム

Flash Japan 三連発!!

A_R_T SL500

GROSSER WALD W215

AUTO COUTURE R129

アメリカからの刺客

RENNTECH SL55K





注目度も高き
“レンテックSL55K”

前号でもお伝えしたように、レンテックはアメリカを中心にAMGを過激にチューニングすることで成功を遂げたが、社長のヘルムート・フェイトは70年代、AMGでメカニックとして貴重な経験を積み重ね、その後アメリカAMGビジネスに大きく携わった人物だといっても過言ではないのだ。その創業家であるヘルムート・フェイトは「レンテックは、まだまだ中小企業です。しかし、我々はポリウムを拡張してビジネスを拡大するより顧客により良い価格で製品を提供することに重点を置いている。また、私は多くの販売ディーラーと信頼関係を結ぶ必要があると思っています。さらに意匠を凝らしたシヨールームやスポンサー企業を擁しているわけではなく、チューナーとしてのイメージ、そして十分な財政的余裕こそが重要であるのです。本当に重要なことはチューナーが顧客、良い技術的バックアップに対する正しい姿勢を持っており、よくアフターマーケットを知ることです」と彼はアメリカに置けるレンテックの位置づけを語る。

そしてレンテックの最新作が、今回紹介するレンテックSL55Kだ。もっとも注目したい部分はホイール。19インチのアウトライムが磨き上げられた10スポーク、時として大きなホイールとタイヤの組み合わせは、オリジナ

風のセンセーション!

フロリダを中心として活発的にメルセデス・チューナーの地位を築いたレンテック。あくまでもエクステリアは貴婦人が乗ってもびったり似合いそうな大人の雰囲気醸成。その反面、アクセルをいっきに踏み込むと無限大の加速フィールを味わうことができるモンスターマシンだ。

Ian Kuaah ● Photo & Report Special Cars ● Text



Coming from
AMERICA

RENNTTECH SL55K





1 レンテックのチューニングを施されたV8スーパーチャージャー・ユニット。パフォーマンス・パッケージは1~3まで用意されているが、最大で575ps/2540rpm、83kgm/6100rpmのパワーとトルクを叩き出す。2 インテリアも風土に合わせて変更。特にセンターコンソールとステアリング一部にカーボンをあしらう。3 エキゾーストは左右2本出しだが、ここから発するサウンドは最高だ。4 ホイールは足下を引き締めるために鋳造を採用。これはレンテックオリジナルで巨大なサイズにも関わらず軽量で十分な強度を誇る。5 フロント9J×19 (1本1495ドル)、リヤ11J×19 (1本1795ドル) 極大サイズを履く。6 フロリダにショップを構えるレンテックはショールーム+メンテナンス工場を完備。ここからアメリカ全土にメルセデスのチューニングカーが出陣するのである。



6

5

4



レンテックCLKのプログラムは比較的ポピュラーなものだが、リヤフェンダーはかなり張り出しているのも特徴。その他ハイリフトカムにバルブスプリングの強化、スーパーチャージャー・ブリークの拡大、そしてECUの書き換え。PP1はECUのみ、PP2はカムまわりの変更で414ps、最終段階は450ps/3.8㍉エンジンのPP3仕様だ。

それまで待たなければならなかったのだ。レンテックはまずスターティングポイントとして、ストックのSL5500をAMG仕様へとチューニングすることからはじめている。2000余りのパーツに関する補強交換、エンジンブロックすらSL5500をベースに仕事を開始。その結果、幸いなことにいくつかのレベルでのチュー

ーニングキットも新開発することができたのである。パフォーマンス・パッケージ1 (P1)はECUの書き換えだけで15ps、クランクのブリークを大型化することで結果的に27ps、19kgmの最大トルクを向上するキットを準備させた。これにエキゾーストマニホールドを加えることで、PP2のキットは、さらに20ps、トータルで540ps/79・3kgmのパワーとトルクを発生させるパフォーマンスを実現したのだ。さらにPP3はスーパーチャージャーとインタークーラーをオリジナルとし、最高出力575ps/2540rpm、最大トルク83kgm/6100rpmを發揮するキットとなる。

さらにECUのセッティングによって、ABCサスペンションをわずかに低く車高を設定しているが、245/40ZR19と285/25ZR19という極太タイヤと19インチホイールを組み合わせていても、十分な柔軟性を持っているのだ。そして止まるという最も重要な部分として、レンテックはメルセデスの誇るSBCにボルシエGT2で採用している6ポットのブレンドキャリパーを装着している。実は、このあたりにはレンテックのアメリカでのビジネスを展開するにあたっての苦労話でもあるのだが……。

実際に確認できる環境はアメリカでは存在しないが、0-96km/h加速はボルシエGT2の領域である4・1秒、2tをたった100kgしか切っていない重量級としては、驚くべきパフォーマンスを醸し出しているのである。このレンテックSL55Kは、まさに超高級の2シーターオープンモデルといっても過言ではないのだ。



ジェントルな外観から想像できない 驚異の加速フィールは「本物」だ



RENNTECH SL55K

早速、レンテックSL55Kをドライブすることにしよう。スポーツ・エキゾーストから奏でられるNASCARのようなぞくぞくするV8サウンドミュージックが刺激的で、惚れ惚れとしてしまうほど心地いい。だから、必要のないブリッピングやキックダウンを、ついついしなくなってしまった。

住宅地では気がひけるほどの豪快なサウンドだが、取り締まりの厳しいアメリカではその回転域を試すことのできる環境も少ない。約120km/hで流

ルのホイールハウスでさまざまなものと干渉しない、容易に組合わせられるものではない。しかしレンテックは、このホイールを日本の鋳造工場と直接やり取りを行ったため、専用設計が施されているのでベストマッチング・ホイールとなっている。鍛造は11J×19インチで、なんと9・45kgと軽量で十分な強度を誇る。当然のことながら、鍛造は高価で1本1795ドル、フロントの9J×19は1495ドルだ。鋳造ホイールのほぼ倍となる価格だが、SLの購入を考慮しているのなら迷わず鍛造ホイールを選ぶはずである。

さて、エクステリアはSL55 AMGをベースとしているにもかかわらず、AMGのエアロパーツをいっさい纏っていない。理由は単純、レンテックの独自のキットはSL5500をベースとして作っているため、フロントリッパはSL5500のパネルと組み合わせられているからだ。見ようによってはやや悪趣味ともいえるリップスポイラーだが、フラットボトムを形成するに不可欠なデバイスとなっているトランクスポイラーも同様に機能を重視したスタイリングとなっているのである。

甲高いV8サウンドが
もつとも刺激的!